

埼玉県小児在宅医療推進の取り組み
2023 年度（令和 5 年度） 埼玉県小児在宅医療推進事業報告書
目次

巻頭言	3
I. 医療的ケア児/重心児の支援者向け動画	5
資料 I -1. 医療的ケア児/重心児支援者向け動画のご案内	7
資料 I -2. 申込者内訳	8
資料 I -3. 講義動画一覧	11
資料 I -4. 開催方法、視聴後アンケート回答数	12
II. 医療的ケア児の災害対策研修会	13
資料 II -1. 災害対策研修会のご案内	14
資料 II -2. 申込者内訳	15
資料 II -3. プログラム	16
資料 II -4. アンケート	17
III. 小児リハビリ研修会	19
資料 III -1. 小児リハビリ研修会のご案内	21
資料 III -2. 申込者内訳	22
資料 III -3. プログラム	23
資料 III -4. アンケート	24
IV. 小児在宅医療実技講習会	28
資料 IV -1. 小児在宅実技講習会のご案内	30
資料 IV -2. 申込者内訳	31
資料 IV -3. プログラム	32
資料 IV -4. アンケート	33
V. 埼玉県小児在宅医療支援研究会	37
資料 V -1. 第 48 回開催案内	40
資料 V -2. 第 49 回開催案内	41
資料 V -3. 第 50 回開催案内	42
資料 V -4. 第 51 回開催案内	43

巻頭言

今年度も埼玉県小児在宅医療推進事業報告書をお届けいたします。

新生児集中治療室長期入院児対策として始まった埼玉医科大学総合医療センター小児科における小児在宅医療の取り組みも既に15年余り続いております。埼玉県におきましても医療的ケア児支援センターが2022年度に開設され、2023年度には複数の地域センターが新たに開設されました。

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0605/iryoutekikeajitou/shien.html>)

この15年は大きな災害の歴史でもありました。東日本大震災を始め、地震としては中核的な周産期センターが被災した熊本地震、ブラックアウトを伴った北海道胆振東部地震、そして今年正月の能登半島地震がありました。その他、豪雨や台風による水害もありました。能登半島地震では石川県の医療的ケア児支援センターの働きにより、地域の医療的ケア児の避難が速やかに行われたと聞いております。今後、小児在宅医療では災害対策も重要になってくると思います。小児・周産期リエゾンにより、埼玉県でもいくつかの地域で医療的ケア児の対応も含めた活動が少しずつ進んできています。

また特別支援学校に通学する医療的ケア児が増えており、その特徴としてこれまで医療的ケア児のいなかった知的障害の特別支援学校にも通学するようになりました。特別支援学校の相談医については埼玉県医師会と日本小児科学会埼玉地方会・埼玉県小児科医会が連携を取りながら教育局特別支援教育課への協力を継続しています。

埼玉県小児在宅医療支援研究会や医療的ケア児（重心児）の在宅支援者向け講習会、実技講習会などこれまで行ってきた事業も継続中です。

医療的ケア児支援センターを発展させたり、災害時の対応が迅速に行えたりするようになり、県内の在宅の医療的ケア児とご家族が安心して過ごせる環境が整備されるよう、保健医療部医療整備課とともに今後も活動を続けてまいる所存です。今後とも皆様にご指導・ご鞭撻いただければと思います。

令和6年3月

埼玉医科大学総合医療センター小児科
運営責任者
森脇 浩一

I. 医療的ケア児/重心児の支援者向け動画

1. 開催案内（資料Ⅰ－1「医療的ケア児/重心児の支援者向け動画のご案内」参照）

ホームページへの掲載、会員及び昨年度の参加者へメール、小児科 SNS への掲載、埼玉県訪問看護ステーション協会ホームページへの掲載、埼玉県医療整備課から各市町村へ連絡によって開催案内をした。

2. 申込者（資料Ⅰ－2「申込者内訳」参照）

Google フォームで参加登録を作成した。申込締切り後に重複者を削除し、事務連絡をして一斉メールが届くかどうかを確認した。間違えないように細心の注意が必要となる作業であった。

1) 重複削除

- (1) 名前：同姓同名がいる。ふりがなを 50 音順にならべ、目視で名前、メールアドレス、職場を確認して重複削除をした。同一人物だが違うアドレスで申し込んでいる事もあった。両方のメールアドレスに連絡すると大抵片方はエラーで届かないのでその時点で重複削除をした。両方のメールアドレスが使えた場合（エラーにならなかった場合）は個別に連絡をとり、どちらか1つのメールアドレスを残した。
- (2) メールアドレス：職場のメールアドレスで登録しており、別人だがメールアドレスが同じということが数ある。メールアドレスをアルファベット順にならべ、目視で名前、メールアドレス、職場を確認した。一斉メール用のアドレスは1件だけ登録した。

2) メールアドレスの確認

- (1) 動画配信前に事務連絡メールを一斉送信した。
- (2) エラーで戻ってきた方に対して電話で問い合わせをした。留守電にメッセージを残したが折り返し連絡がなかった1名の申込を削除したが、その後問い合わせはなかった。

最終的に 37 都道府県から 469 名の申込となり、昨年度より 110 名増えている。昨年度は一昨年度より 120 名増えており、参加者は年々増加傾向にある。参加者の職種は保健師・助産師・看護師が一番多く、2 番目は理学療法士、3 番目は教員（大学などで小児や在宅支援を教えている教員も含む）が多かった。教員が多かったのは今年度の特徴といえる。勤務先は訪問看護・リハビリステーションが一番多く、2 番目は児童発達支援・放課後等事業所、3 番目は病院・クリニックであった。病院・クリニックからの参加者は昨年度の 2 倍になっている。

3. 内容（資料Ⅰ－3「講義動画一覧」参照）

大きく5つにまとめると以下ようになる。

- 1) 基本的な内容（医療的ケア児の現状と課題、身体障害者手帳や療育手帳、小児慢性特定疾病、重症心身障害児者の身体特徴についてなど）
- 2) 疾患に関する内容（てんかん、心疾患、摂食嚥下障害、難聴）
- 3) 医療デバイスに関する内容（胃ろうボタン、気管カニューレ、人工呼吸器）
- 4) 小児リハに関する内容（運動発達、姿勢保持、補装具、遊びの発達）

5)訪問支援に関する内容（歯科、薬剤師）

保育士向けの内容は県及び地域の医療的ケア児支援センターでも配信していたので今年度は実施しなかった。代わりに、家族との関り方のヒントにすべく「家族のミカタ～家族を知って味方になろう～」の講義を追加し、全 16 講義を配信した。

4. 開催方法（資料Ⅰ－4「開催方法、視聴後アンケート回答数」参照）

Google フォルダに「お知らせ」「講義資料」「講義動画」「研修会などのお知らせ」を作成。

12 月から 3 月上旬にかけて、1 回に 3～4 つの講義動画及び資料をアップし、その都度メールで申込者にお知らせをした。講師への質問は視聴後アンケートに記載していただき、視聴期間終了後にまとめて講師に回答を依頼した。質問への回答は視聴後アンケート記載の有無にかかわらず動画配信申込者全員に送った。

5. 視聴後アンケート（資料Ⅰ－4「開催方法、視聴後アンケート回答数」参照）

視聴後アンケートの記載が一番多かった講義は「手帳（身障者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）と小児慢性特定疾病」で 172 名/468 名であった。多くの医療的ケア児や重心児は手帳を持っているが交付対象やサービスが多岐にわたる。それを正確に理解したい支援者が多いのだろう。ニーズはあるので今後もこの内容は継続していく。

6. その他

今後の動画配信の内容については、医療的ケア児支援センターとも相談していく。また、視聴後アンケートで「同じテーマで追加してほしい内容」を記載していただいたので、そこに書かれた内容を参考に作成していく。ただし、視聴後アンケートの回答が少なかった動画はニーズがないと思われる為、次年度の作成依頼をするかどうか再検討する。

2023年度 医療的ケア児／重心児の支援者向け動画のご案内

参加費
無料

対象

医療的ケア児／重心児を支援している方

(看護職・リハビリ職・介護職・相談支援専門員・教員・保育士
・児童支援員・市町村職員など)

参加方法

2023年12月～2024年2月の期間、講義動画を順次配信します。
興味のある動画を視聴し、視聴後にアンケートを記載して下さい。
質問への回答は、2024年3月にまとめて公表する予定です。

講義動画

- 小児在宅医療の現状
- けいれんへの対応
- 胃瘻 ・ 気管切開
- 小児訪問歯科診療
- 薬剤師による訪問サービス
- 家族とのより良い接し方
- 小児リハビリ（運動発達、姿勢とポジショニング、補装具と日常生活用具、遊びと発達、実技動画）
- 身障者手帳と小児慢性特定疾病
- 重症心身障害児／者について
- 心疾患 ・ 在宅人工呼吸器
- 摂食嚥下のケア

申込方法

申し込みは下記のQRコードもしくはURL
<https://forms.gle/PB5VJ7jfmzQ53i319>



締め切り：2023年12月6日（水）14時

【注意事項】

- 一つのパソコンで複数の参加者が視聴する場合、**一人ずつお申し込み下さい。**
- **携帯キャリアのメールアドレスや地方自治体のメールアドレス（@city., @pref.など）では登録しないで下さい。**事務局からのメールを受け取れなかったりURLを開けなかったりすることがあります。
- メールアドレスが通じない場合は、申込フォームの電話番号にお電話いたします。そのため、なるべく**個人所有の電話番号を登録して下さい。**
- **お申込みいただいた方には、締切後に事務連絡メールをいたします。**
12月12日（火）を過ぎても事務局からメールが来ない場合は、ご一報ください。
- 埼玉県への事業報告書に研修風景の写真を掲載いたします。
差支えがある方はお申し出ください。
- 医療用語を分かり易く解説することはしていません。ご了承ください。

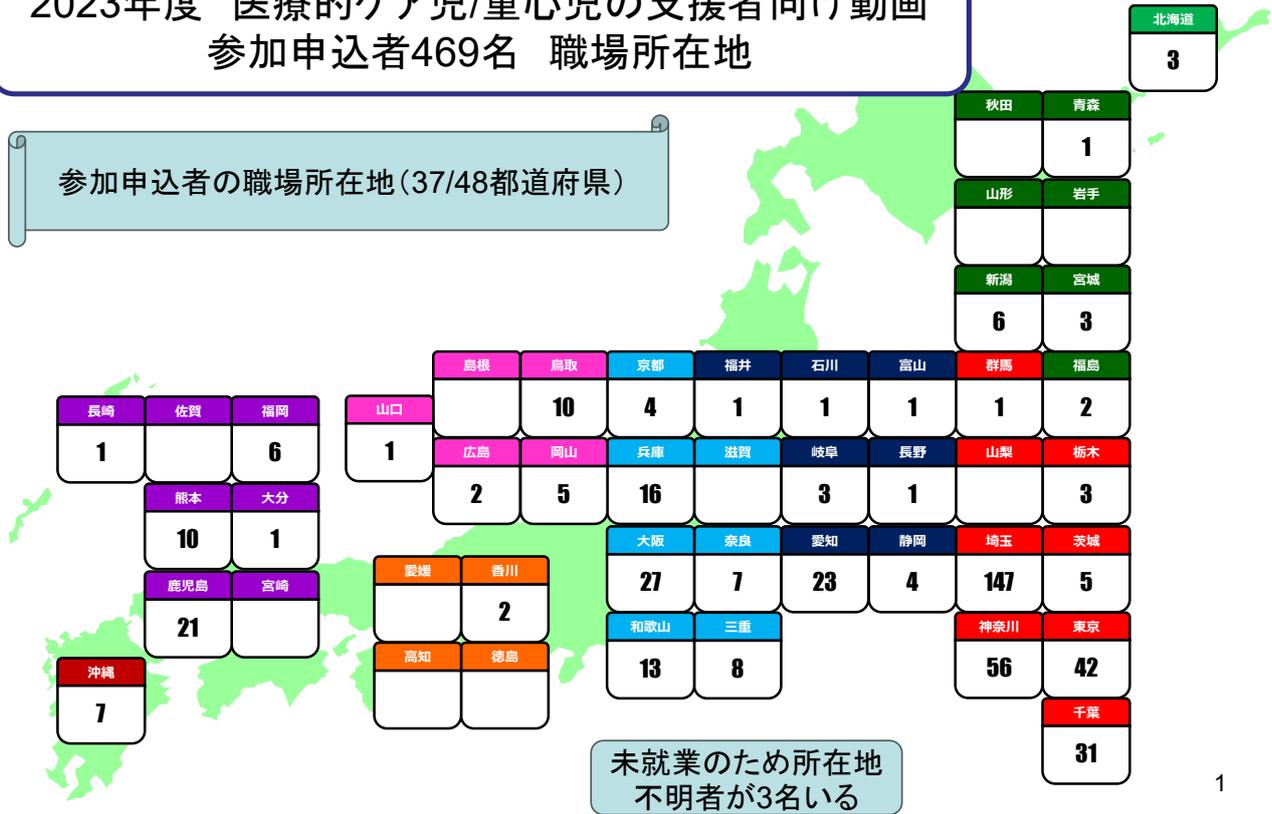
研修会担当

埼玉医科大学総合医療センター 小児診療看護師 小泉恵子

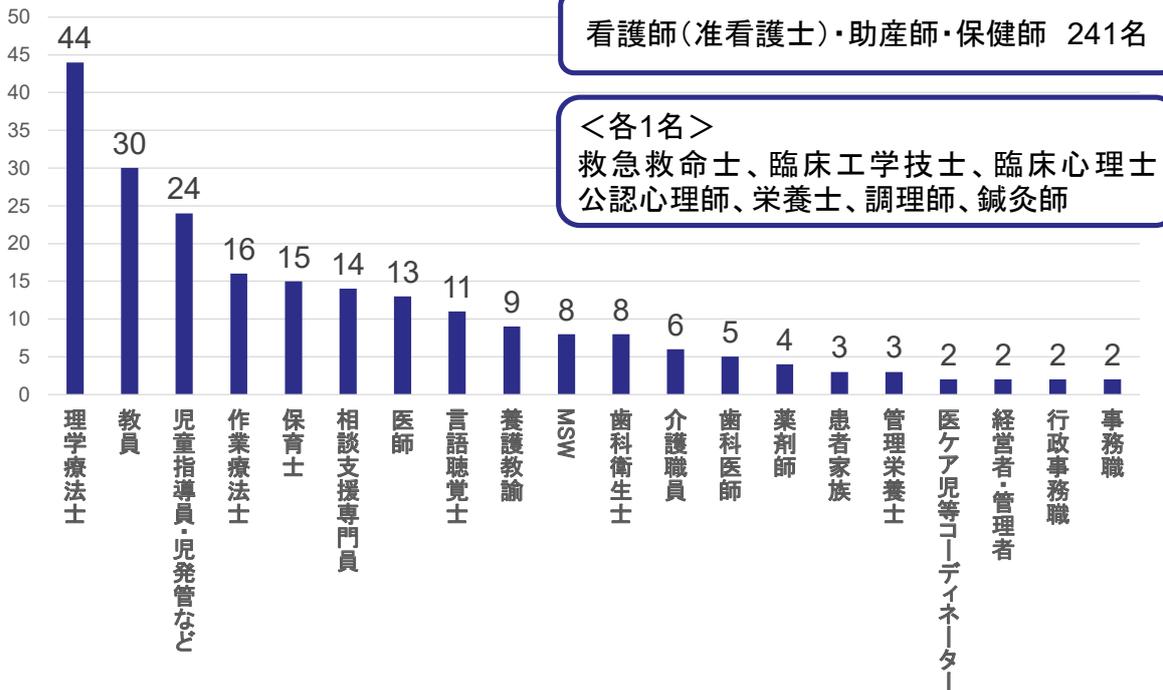
問い合わせ先：pedzaitaku+2023@gmail.com

2023年度 医療的ケア児/重心児の支援者向け動画 参加申込者469名 職場所在地

参加申込者の職場所在地(37/48都道府県)



参加申込者の職種内訳(469名)



申込者 事業形態別職種内訳(469名)

事業形態	人数	職種	人数
訪問看護 リハビリステーション	120	看護師・助産師・保健師	87
		理学療法士	18
		作業療法士	9
		言語聴覚士	6
児童発達支援事業所 放課後等デイサービス 事業所	92	看護師(准看護師)・助産師・保健師	46
		児童指導員・児童支援員・児童発達支援管理責任者 児童福祉司など	17
		保育士	9
		理学療法士	8
		介護職員	4
		作業療法士	3
		<各1名>医師、作業療法士、言語聴覚士、鍼灸師、経営者管理 者	5
病院・クリニック	64	看護師・助産師・保健師	21
		医師	11
		理学療法士	8
		MSW	7
		歯科衛生士	5
		歯科医師	5
		相談支援専門員	2
		<各1名>薬剤師、作業療法士、言語聴覚士、保育士 事務職	5
特別支援学校	60	教員	24
		看護師・助産師・保健師	23
		養護教諭	9
		言語聴覚士	2
		<各1名>理学療法士、栄養士	2
幼稚園・保育所 認定こども園	27	看護師・助産師・保健師	20
		保育士	4
		理学療法士	1
		<各1名>調理師、管理者	2
障害児者入所施設	18	看護師・助産師・保健師	8
		理学療法士	3
		児童指導員・児童支援員、児童発達支援管理責任者 児童福祉司など	2
		管理栄養士	2
		<各1名>相談支援専門員、MSW、歯科衛生士	3

事業形態	人数	職種	人数
児童発達支援センター	17	看護師・助産師・保健師	6
		児童指導員・児童支援員、児童発達支援管理責任者 児童福祉司など	5
		理学療法士	3
		<各1名>作業療法士、臨床心理士、保育士	3
相談支援センター・事業所	12	相談支援専門員	11
		医療的ケア児等コーディネーター	1
県庁・市役所等	11	看護師・助産師・保健師	7
		行政事務職	2
		<各1名>救急救命士、公認心理師	2
大学	7	教員	5
		看護師・助産師・保健師	2
保健所・保健センター	9	看護師・助産師・保健師	9
生活介護事業所	3	看護師・助産師・保健師	2
		理学療法士	1
居宅介護支援事業所	2	介護職員	2
その他	24	看護師・助産師・保健師	9
		患者家族	3
		薬剤師	3
		歯科衛生士	2
		<各1名>理学療法士、作業療法士、臨床工学技士 管理栄養士、教員、事務職、医ケア児等コーディネーター	7
未就業	3	<各1名>医師、看護師・助産師・保健師、言語聴覚士	3

チェック	テーマ	講師
	手帳（身体障害・療育・精神障害者）と小児慢性特定疾病について	総合医療センター小児科 医師 奈倉道明
	けいれん、てんかん	総合医療センター小児科 医師 奈倉道明
	重症心身障害児・者について ～成長に伴う変化、呼吸や栄養管理の工夫・注意点～	医療法人財団はるたか会あおぞら診療所 ほっこり仙台院長 田中総一郎
	循環管理の考え方（第42回埼玉県小児在宅医療支援研究会の録画）	総合医療センター小児循環器科 医師 石戸博隆
	小児在宅歯科医療の装いでアドボカシー	埼玉県歯科医師会地域保健部 副部長 望月歯科医院 医院長 望月司
	薬剤師による在宅訪問サービスを知ろう！	たから薬局上福岡店 管理薬剤師 川瀬祐子
	小児在宅医療の現状2023	総合医療センター小児科 教授 森脇浩一
	小児リハ:運動発達を促す (講義+実技動画)	総合医療センター 理学療法士 守岡義紀
	小児リハ:姿勢とポジショニング (講義+実技動画)	医療法人財団はるたか会 理学療法士 長島史明
	小児リハ:補装具と日常生活用具 (講義+実技動画)	埼玉医大福祉会カルガモの家 理学療法士 菅沼雄一
	小児リハ:あそびと発達・家族の支援 (講義+実技動画)	東大宮訪問看護ステーション 作業療法士 星野暢
	摂食・嚥下のケアと難聴児の支援2023	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校 言語聴覚士 室田由美子
	胃瘻について(コネクタ形状変更による問題点)	総合医療センター小児外科 医師 小高明雄
	気管切開とカニューレ管理	総合医療センター耳鼻咽喉科 医師 田中是
	在宅人工呼吸について	総合医療センター 臨床工学技士 山口里香
	家族のミカタ～家族を知って味方になろう～	せたがや訪問看護ステーション 家族支援専門看護師 横田 益美

資料 I -4

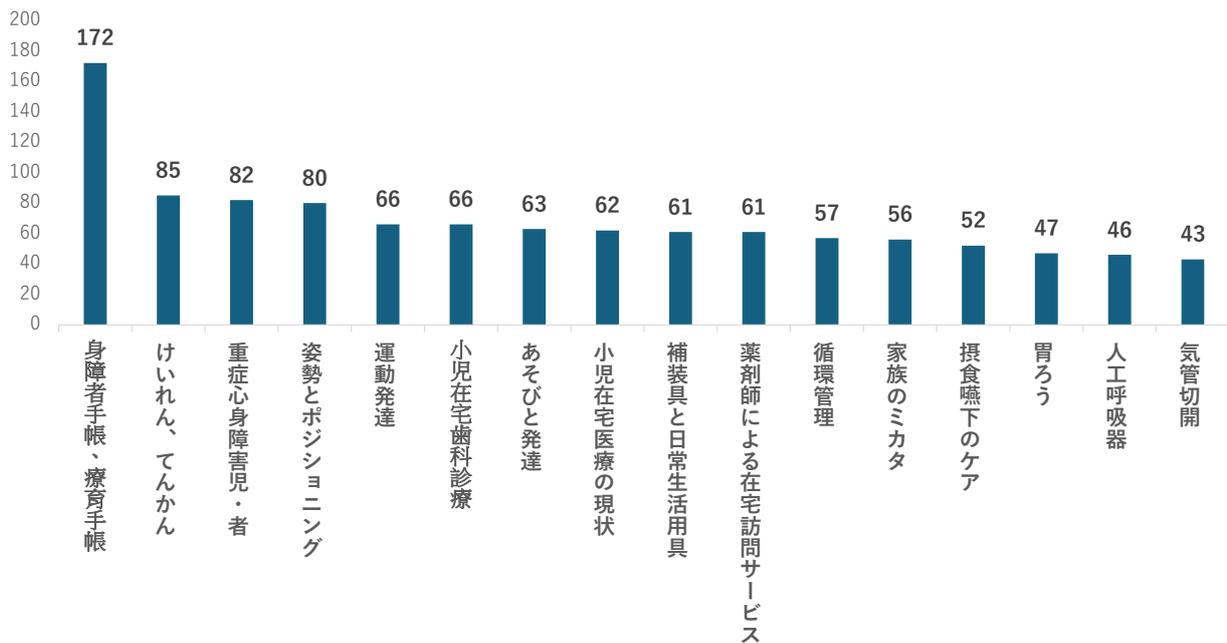
開催方法

メールに記載されている URL をクリックすると Google フォルダが開く。



1

視聴後アンケート回答数（参加登録469名）



2

II. 医療的ケア児の災害対策研修会

1. 開催案内（資料Ⅱ－1「災害対策研修会のご案内」参照）

支援者向け動画と同じ方法で案内をした。

2. 申込者（資料Ⅱ－2「申込者内訳」参照）

全国から 47 名の申し込みがあった。集合研修の為、県外から申し込まれた方には再確認した。例年の申込は 20 名前後のため 2023 年度はかなり多かった。申込み締切りは 1 2 月中だったので能登半島地震が参加動機ではなく、集合研修に参加しやすくなった為だと思われる。昨年度も参加していた参加者 2 名に当日運営補助を依頼し、キャンセルや当日欠席により最終的に 30 名で開催した。参加者の職種は保健師・助産師・看護師が一番多く、他の職種は 1～2 名ずつであった。勤務先は訪問看護・リハビリステーションが一番多かった。このうち医療的ケア児等支援センターの担当者が 4 名（埼玉県から 3 名、福島県から 1 名）おり、横のつながりも出来た。

3. 内容（資料Ⅱ－3「プログラム」参照）

災害時個別支援計画には電力会社への事前登録及び停電時の連絡について記載されているが、連絡をしたら何をしてもらえるのか知らないため、家族から質問されても回答できない。そこで県内保健所で行われていた東京電力パワーグリッド株式会社の講義を参考にして、「電気の基礎知識と災害時の備え（テブコ速報について）」を依頼。出来る事だけでなくできない事も明確にしていた。また、災害対策基本法改訂により福祉避難所への直接避難を促進しているにも関わらず体制整備ができていない。令和 5 年度に埼玉県が災害時要配慮者避難体制サポート事業として個別避難計画に基づく福祉避難所への直接避難についてモデル市町村を選定し、体制整備を促すと聞いた。そこでモデル市町村の 1 つに講師を依頼し、経緯と課題をお話ししていただいた。県の事業を知ることは支援者としても重要である。午前の最後はグループワークを行った。話し足りない内容は昼休憩を使っており、グループ内の情報共有が活発になった。名刺交換も行っており、グループワーク⇒昼休憩としたこの順番は成功であった。また、例年通り HUG を実施し、避難所がどのような状態になるのかを知ったうえで自分たちは何ができるのかを考えた。最後に災害支援の経験が豊富な石井美恵子先生から災害時の多職種連携について講義していただいた。能登半島地震もあったため、今後の災害対策に活かせる内容であった。

4. 参加後アンケート（資料Ⅱ－4「参加後アンケート」参照）

29 名から回答があった。特に HUG に関して「自治体に働きかけし実施に繋がりたい」「手軽に学べる方法なのフィードバックしたい」という意見が多かった。昼食の準備を希望される意見もあったが、当日欠席者などが出ることもあり、そこまでの準備は今後できない。

5. その他

例年 HUG のカード読み上げに防災士を依頼している。防災士と講師が情報交換をしており、講師同士の横のつながりにもなった。また、講師であった市の職員が最後まで参加していただき、HUG やグループワークで支援者の意見を聞いてもらうことができた。

2023年度 医療的ケア児の災害対策研修会 のご案内

対象

埼玉県内で医療的ケア児を支援している方
埼玉県の災害時小児周産期リエソンの方

- * 県外の方も申込できますが、埼玉県の方が優先となります。
- 締切日までに定員オーバーになった場合は、HPでお知らせします。
- * マスク着用は必須です。

参加費
無料

定員

30名 (定員になり次第、申込を締め切ります)

日時 場所

日時：2024年2月3日(土) 9:30~17:00(予定)

場所：埼玉医科大学総合医療センターカンファレンス室

* 感染症拡大のために集合研修が開けない場合は、WEB研修に変更します

内容

- 講義「福祉避難所への直接避難モデル事業について」
- 講義「防災・被災支援における多職種連携」
(国際医療福祉大学大学院 災害保健医療研究センター 石井美恵子)
- HUG(災害時の避難所を運営するロールプレイングゲーム)
(HUGのわ主宰 倉野康彦)
- グループワーク「自分に出来ることは何か」

他検討中

是非一度、「HUG」を経験してみてください。災害時に何をすべきイメージできます。想像することは防災の第一歩です。

石井美恵子先生は災害医療のスペシャリストです。災害看護師として海外への支援にも行かれています。我々ができる防災対策や災害時支援を考えていきましょう。

申込方法

申し込みは下記のQRコードもしくはURL

<https://forms.gle/5DYeQP9SN9oLPDTm8>



締め切り：2023年12月22日(金) 14時

【注意事項】

- 一つのパソコンで複数の参加者が視聴する場合、一人ずつお申し込み下さい。
- 携帯キャリアのメールアドレスや地方自治体のメールアドレス(@city., @pref.など)では登録しないで下さい。事務局からのメールを受け取れなかったりURLを開けなかったりすることがあります。
- メールアドレスが通じない場合は、申込フォームの電話番号にお電話いたします。そのため、なるべく個人所有の電話番号を登録して下さい。
- お申込みいただいた方には締切後に事務連絡メールをいたします。**12月28日(木)を過ぎても事務局からメールが来ない場合は、ご一報ください。**
- 埼玉県への事業報告書に研修風景の写真などを掲載いたします。差支えがある方はお申し出ください。

研修会担当

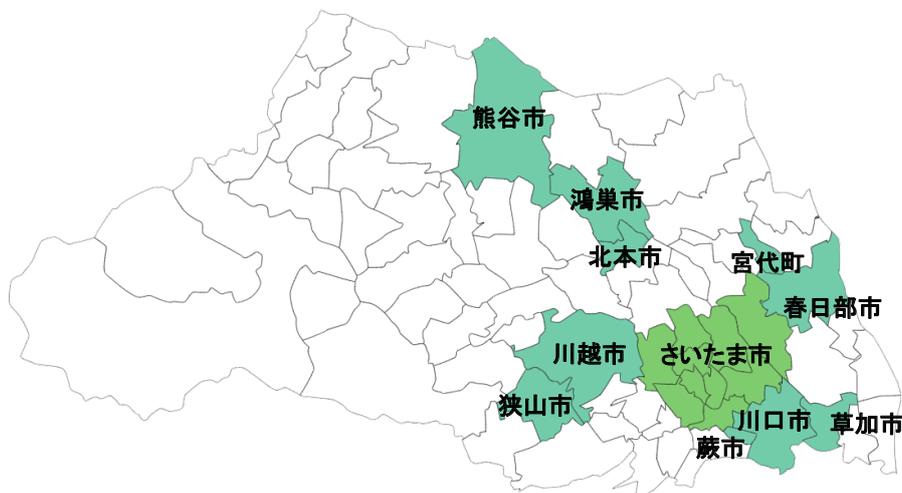
埼玉医科大学総合医療センター 小児診療看護師 小泉恵子

問い合わせ先：pedzaitaku+2023@gmail.com

資料Ⅱ-2

2023年度医療的ケア児の災害対策研修申込者 職場市町村
 申込46名 関東以外の方に再確認をして最終37名

	市町村	人数
埼玉県	さいたま市	9
	川越市	6
	川口市	4
	熊谷市	2
	春日部市	2
	狭山市	1
	鴻巣市	1
	草加市	1
	宮代町	1
	北本市	1
	蕨市	1
東京都		5
神奈川県		2
福島県		1



職種内訳

職種	人数
看護師・助産師・保健師	23
医師	2
児童指導員・児童支援員	2
児発管理・児童福祉司など	1
作業療法士	1
医ケア児コーディネーター	1
相談支援専門員	1
ソーシャルワーカー	1
社会福祉士	1
介護職員	1
患者家族	1
その他	3
合計	37

事業形態別の職種内訳

事業形態	人数	職種	人数
訪問看護・リハビリステーション	8	看護師・助産師・保健師	8
幼稚園・保育所・認定こども園	6	看護師・助産師・保健師	6
病院・クリニック	6	看護師・助産師・保健師	3
		医師	2
		介護職員	1
障害児者入所施設	6	看護師・助産師・保健師	2
		<各1人ずつ> 社会福祉士、児童指導員・児発管など ソーシャルワーカー、医ケア児コーディネーター	4
児童発達支援事業所 放課後等デイサービス事業所	3	<各1人ずつ> 看護師・助産師・保健師、作業療法士 児童指導員・児発管など、その他	3
相談支援センター・事業所	2	<各1人ずつ>相談支援専門員、その他	2
保健所・保健センター	1	看護師・助産師・保健師	1
児童発達支援センター	1	看護師・助産師・保健師	1
県庁・市役所等	1	看護師・助産師・保健師	1
その他	3	その他	2
		患者家族	1
合計	37人	合計	37人

2023年度 医療的ケア児の災害対策研修会プログラム

1. 日時：2024年2月3日（土） 9：30～17：00

受付：9：10～9：30（9：10より前は準備中で対応不可）

2. 場所：埼玉医科大学総合医療センター管理棟カンファレンス室1～2

感染症の流行状況によってオンラインに変更する

3. 対象者：埼玉県で小児の在宅療養支援を行っている方（職種は問わない）

埼玉県の災害時小児周産期リエゾンの方

4. プログラム

時間	分	テーマ	講師
9：30 ～9：40	10分	開催挨拶 事務連絡	小児科教授 森脇浩一 小児診療看護師 小泉恵子
9：40 ～10：10	30分	【講義】電気の基礎知識と災害時の備え（テプコ速報について）	東京電力パワーグリッド川越支社
10：10 ～10：15	5分	講師交代	
10：15 ～10：45	30分	【講義】東松山市の福祉避難所に関する取組について（埼玉県モデル事業）	東松山市社会福祉課
10：45 ～10：55	10分	質問	東京電力パワーグリッド川越支社 東松山市社会福祉課
10：55 ～11：05	10分	休憩	
11：05 ～12：05	60分	【グループワーク・発表】各事業所で行っている災害対策の共有と検討①電源確保②安否確認	小泉恵子
12：05 ～12：55	50分	昼食	
12：55 ～13：05	10分	準備	
13：05 ～15：05	120分	【グループワーク】HUG（避難所運営）を経験しよう！	「HUGのわ」 代表 倉野康彦
15：05 ～15：20	15分	休憩・後片付け	
15：20 ～16：35	講義 70分 質問 5分	【講義】 災害対応時の多職種連携 ～自分たちにできることは何か	国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻災害医療分野教授 国際医療福祉大学災害保健医療研究センター副センター長 石井美恵子
16：35 ～16：50	15分	災害対策まとめ	
16：50 ～17：00	10分	事務連絡	小泉恵子

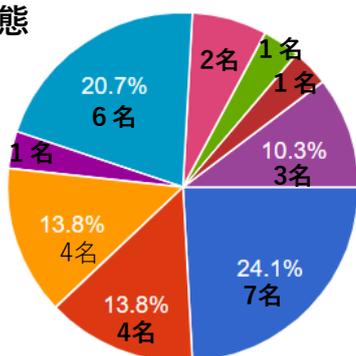
医療的ケア児の災害対策研修会 参加後アンケート

2023年2月3日（土）9：30～17：00

参加者30名 回答者29名

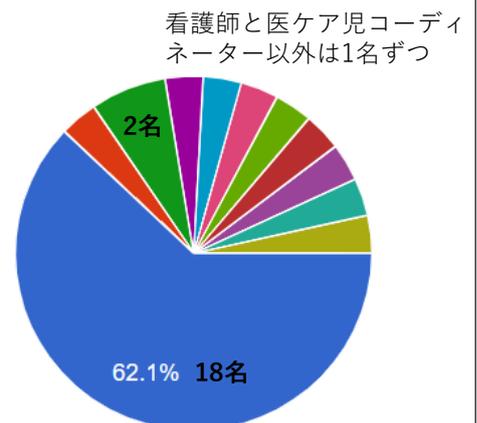
回答者内訳（29名）

事業形態



- 訪問看護・リハビリステーション
- 県庁・市役所等
- 病院・クリニック
- 未就業
- 幼稚園・保育所・認定こども園
- その他
- 児童発達支援センター
- 児童発達支援事業所・放課後等デイサ...
- 障害児者入所施設
- 相談支援センター・事業所
- 保健所・保健センター

職種



- 保健師・助産師・看護師 18名
- 介護職員
- 医師
- 患者家族
- 作業療法士
- 医療的ケア児コーディネーター 2名
- 相談支援専門員
- ソーシャルワーカー
- 社会福祉士
- 児童指導員・児童支援員・児童発達支...

感想やご意見（17件）

- TEPCO速報について患者家族にも情報提供していきたい。
- HUGのようなゲーム感覚で学べるツールがあることに驚いた。とても手軽に誰でも学べる方法なので早速職場にフィードバックする。昼食ご用意いただくと助かる。
- 多職種連携の必要性やHUGは居住自治体に働きかけし、実施に繋げたいと思っている。
- 災害時の支援について、自身の防災も考えさせられた。
- 災害対策についてわからない事だらけだったが、大変多くのヒントをいただいた。職場で活かしていく。
- 色々教えてほしい。一緒にやって行ければ！と思っている。
- 一言で言えないくらい勉強になった。また、続けて参加したい。
- 色々な情報が聞けて勉強になった。また新しい情報や勉強会があったら参加したい。
- 多職種との研修は大変有意義だった。
- 在宅で呼吸器や酸素が必要な状態で退院することが決まった場合、病院側ではどのように医療機器メーカーを選定しているのか知りたい

「ありがとうございました」「とて勉強になりました」「有意義だった」という意見は多数あった

3

今後「医療的ケア児の災害対策」として研修を受けてみたい内容

- 個別支援計画の作り方、自治体との連携について。
- 個別避難計画について事例を交えた勉強会。
- それぞれ市の個別避難計画を見てみたいです。そのメリット、デメリットなど
- 電源問題。
- 発電機の使い方など実践的な研修。
- 医療的ケア児入所施設としての災害時の役割り。
- 広域災害時の長期停電時に酸素ポンベの供給について。
- 実際に災害が起きた所での実態を聞ける研修。
- 実際に災害時の吸引、オムツ交換、栄養などのケアに直結するものの活用する工夫点などを教えて頂きたい。
- 医療機器メーカーの方を招いて講演をお願いする機会も増えているが、1社ずつしかお招きできていない。できれば、複数の企業から講演いただけるような研修があればぜひ参加したい。

4

Ⅲ. 小児リハビリ研修会

1. 開催案内方法（資料Ⅲ－1「小児リハビリ研修会のご案内」参照）

コロナ禍では WEB 上で講義とグループワークを開催しており参加職種も固定していなかったが、年々リハビリセラピストの参加は減っていた。そこでリハビリ研修会運営メンバー（それぞれ病院、訪問、施設に勤務する理学療法士 3 人と訪問に勤務する作業療法士 1 人）と話し合い、以下の 2 点を決めた。

1) 病院にも開催案内を出す

理由①新生児や小児を初めて担当する若いスタッフの勉強になるし、在宅支援を知る事が出来る

理由②病院同士の横の繋がりが作りにくいので、その第一歩となる。

2) 参加者をリハビリセラピストに固定する

理由①困り事を話し合うグループワークにおいて、職種ごとの困り事が違いすぎる。

理由②グループワークで共に考えるのではなく、ファシリテーターが回答者になってしまう。

これを踏まえて、厚生労働省関東信越厚生局ホームページの「保険医療機関・保険薬局の施設基準の届出受理状況及び保険外併用療養費医療機関 一覧」において埼玉県で小児入院医療管理料を算定している病院のうち、小児科医の協力を経てピックアップした病院のリハビリ科責任者あてにも開催案内を出した。また、医療整備課から埼玉県理学療法士協会と埼玉県作業療法士会に研修会掲載依頼をしていただいた。

2. 申込者（資料Ⅲ－2「申込者内訳」参照）

全国から 44 名の申し込みがあったが、実技を行うため会場スペース及び指導者の人数との兼ね合いから県外の方をお断りし 34 名とした。欠席者もあり最終的には 32 名の参加となった。参加者の職種は理学療法士が一番多く、次に作業療法士、言語聴覚士であった。勤務先は病院が一番多かった。経験の浅いリハビリセラピストからの申し込みが多かったので病院はニーズがあるといえる。

3. 内容（資料Ⅲ－3「プログラム」参照）

リハビリ研修会運営メンバーと話し合った。コロナ禍以前の研修では集合研修で実技指導をしたり、困り事を共有し解決方法を検討するグループワークの評判が良かったため、今年度はそれを再開した。実技とグループワークをすると講義の時間が少なくなる。そこで講義は事前視聴とし、当日質問への回答をおこなった。経験の浅いリハビリセラピストは子どもへの関わり方やリハビリ計画に迷う事もあるため、基本を教えたいと考え「小児リハの糸口～かわり方の難しい子どもとの関係づくり～」の講義をベテランのリハビリセラピストに依頼した。また、子どものリハは病院一訪問一療育施設と多岐にわたり、リハの目的・目標が違うがお互いに理解していないことが多い。そこでそれぞれの施設に働く理学療法士がどのような活動をしているか説明することで連携の架け橋とした（まずはお互いを知る事）。さらに参加者にも職場紹介のスライド作成を呼びかけた。グループワークのテーマである「困り事」は事前にアンケート

に記載していただいた。グループは似たような困りごと同士や同職種で集めるのではなく、あえてばらばらにすることで様々な悩みを共有することにした。経験豊富なファシリテーターを選定し、解決やヒントを導き出すことができた。実技はカルガモの家のリハ室で行った。リハ室には様々な用具や車いすがあるため、研修会終了後は設備見学もできた。

4. 参加後アンケート（資料Ⅲ-4 「参加後アンケート」参照）

31名から回答があった。プログラムの内容はおおむね満足が多かった。特に「自分と同じ悩みを抱えていることや目標設定の考え方などを知れて良かった」「病院と地域のリハの視点や考えを聞いて良かった」という回答が多かった。病院同士横のつながりは作りにくいですが、この研修会を通して病院同士及び病院と在宅で活動しているリハビリセラピストとの交流の場になったといえる。

事前動画の質問への回答時間が短かったことや口頭での回答だったので、残すことができるようにしてほしいという意見があった。今後は文章にするなど工夫をしていく。

5. そのほか

言語聴覚士の参加があったが指導者にはいなかった。今後、言語聴覚士の指導者もさがしていく。また、埼玉県作業療法士会及び言語聴覚士会へ広報し参加人数を増やしていく。

2023年度 小児リハビリ研修会 のご案内

集合研修を再開します！



参加費
無料

対象

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士

*県外の方も申込できますが、埼玉県の方が優先となります。
締切日までに定員オーバーになった場合は、HPでお知らせします。
*マスク着用は必須です

定員

30名（定員になり次第、申込を締め切ります）

日時
場所

日時：**2024年2月18日（日）9：30～17：00（予定）**

場所：**埼玉医科大学総合医療センターカンファレンス室**

*感染症拡大に伴い集合研修ができない場合はWEB開催に変更します

内容

事前に動画を視聴し、集合研修で実技とグループワークを実施

- ・ 小児リハの糸口～かわり方の難しい子どもとの関係づくり～
- ・ 過敏のある子どもへの関わり方
- ・ NICU退院児のリハビリの目的
- ・ 病院一施設間の連携ポイント など

初めて小児を担当して不安な方、子どもと仲良くなるのが難しい方、NICUを退院してきた子どものリハビリの目的に悩んでいる方、病院との連携に課題を感じている方。その困りごとを相談しませんか。仲間の輪が広がれば、支援が豊かになります。講師は、病院、障害児入所施設、訪問看護ステーションに勤務するベテランの理学療法士、作業療法士です。

申込方法

申し込みは下記のQRコードもしくはURL
<https://forms.gle/L1apE3YSz1bzWney5>



締め切り：2024年1月9日（火）14時

【注意事項】

- 一つのパソコンで複数の参加者が視聴する場合、**一人ずつお申し込み下さい。**
- **携帯キャリアのメールアドレスや地方自治体のメールアドレス（@city., @pref.など）では登録しないで下さい。**事務局からのメールを受け取れなかったりURLを開けなかったりする場合があります。
- メールアドレスが通じない場合は、申込フォームの電話番号にお電話いたします。そのため、なるべく**個人所有の電話番号を登録して下さい。**
- **お申込みいただいた方には締切後に事務連絡メールをいたします。**
1月16日（火）までにを過ぎても事務局からメールが来ない場合は、ご一報ください。
- 埼玉県への事業報告書に研修風景の写真を掲載いたします。差支えがある方はお申し出ください。

研修会担当

埼玉医科大学総合医療センター 小児診療看護師 小泉恵子

問い合わせ先：pedzaitaku+2023@gmail.com

資料Ⅲ-2

2023年度小児リハビリ研修会申込者職場市町村及び職場
申込者 44名 * 定員オーバーで県外の方をお断りし、県内だけで34名 *

市町村	所属	人数	市町村	所属	人数
熊谷市	社会医療法人 熊谷総合病院	5	和光市	国立病院機構 埼玉病院	2
富士見市	イムス富士見総合病院	4	久喜市	訪問看護ステーション コスモス	1
	富士見市立みずほ学園	1	春日部市	春日部市立ふじ学園	1
上尾市	上尾中央総合病院	2	川口市	訪問看護ステーション虹	1
	訪問看護ステーションふれあいあげお	1	三郷市	アルク純誠会みさと	1
	株式会社サイサン ハートワン埼玉	1	草加市	こども支援ポム草加まつなみき園	1
さいたま市	ひさご訪問看護リハビリステーション	2	鶴ヶ島市	訪問看護あさひ土呂	1
	はみんぐ訪問看護ステーション	1	東松山市	ケアーズ訪問看護リハビリステーション 東松山	1
	訪問看護あさひ土呂	1	北本市	北里大学メディカルセンター	1
川越市	埼玉医科大学総合医療センター	3	日高市	あさひヶ丘訪問看護ステーション	1
所沢市	明生リハビリテーション病院	1	入間市	訪問看護ステーション おはな	1



1

事業形態別の職種内訳

職種内訳

職種	人数
理学療法士	25
作業療法士	7
言語聴覚士	2
計	34

事業形態	施設	職種	人数
病院・クリニック	8	理学療法士	11
		作業療法士	5
		言語聴覚士	1
訪問看護・リハビリステーション	10	理学療法士	11
		作業療法士	1
		言語聴覚士	1
児童発達支援事業所 放課後等デイサービス事業所	2	理学療法士	2
		作業療法士	1
児童発達支援センター	2	作業療法士	1
		理学療法士	1

2023年度 小児リハビリ研修会プログラム

1. 日時：2024年2月18日（日） 10：00～17：10

受付：9：30～10：00（9：30より前は準備中で対応不可）

2. 場所：埼玉医科大学総合医療センター管理棟カンファレンス室1～2

* 感染症の流行状況によってオンラインに変更する *

3. 対象者：埼玉県で小児の在宅療養支援を行っている理学療法士・作業療法士・言語聴覚士

4. プログラム

時間	分	テーマ	講師
10：00～ 10：15	15分	はじめに スタッフ紹介	運営事務局 小泉恵子
10：15～ 11：00	15分	スペシャルニーズがある子どもを取り巻く環境	医療法人財団 はるたか会 理学療法士 長島史明
	10分	埼玉県医療的ケア児支援センターについて	埼玉県小児在宅医療支援研究会 小児診療看護師 小泉恵子
	10分	埼玉医科大学総合医療センターの理学療法について	埼玉医科大学総合医療センター 理学療法士 守岡義紀
	10分	医療型障害児入所施設カルガモの家の理学療法について	医療型障害児入所施設カルガモの家 理学療法士 菅沼雄一
11：00～ 11：10	10分	休憩	
11：10～ 12：00	50分	事前配信動画のレビューと 質疑応答	中川の郷療育センター 宮本清隆 総合医療センター 守岡義紀 はるたか会 長島史明 カルガモの家 菅沼雄一 東大宮訪問看護 星野暢
12：00～ 12：50	50分	昼休憩・名刺交換	
12：50～ 13：05	15分	カルガモの家に移動	
13：05～ 14：45	100分	【実技】 子どもの触り方 抱っこの方法 座位での遊びの工夫	中川の郷療育センター 宮本清隆 はるたか会 長島史明 カルガモの家 菅沼雄一
14：45～ 15：00	15分	休憩	
15：00～ 16：50	110分	グループワーク及び発表 テーマ「困り事を解決しよう！」	はるたか会 長島史明
16：50～ 17：00	10分	まとめ	各講師
17：00 ～17：10	10分	事務連絡	運営事務局 小泉恵子

【参加者の方へ】

1. 休日のため会場を自由に出入りできません。昼食及び飲み物をご持参ください（敷地内にローソンがございます。購入後に参加受付をしてください）
2. 実技では靴を脱ぐので靴下を着用してください
3. 感染予防のためマスクを着用してください（可能であれば手指消毒剤を持参ください）

2023年度小児リハビリ研修会 参加後アンケート

2024年2月18日（日）10時～17時

AM 埼玉医科大学総合医療センターカンファレンス室

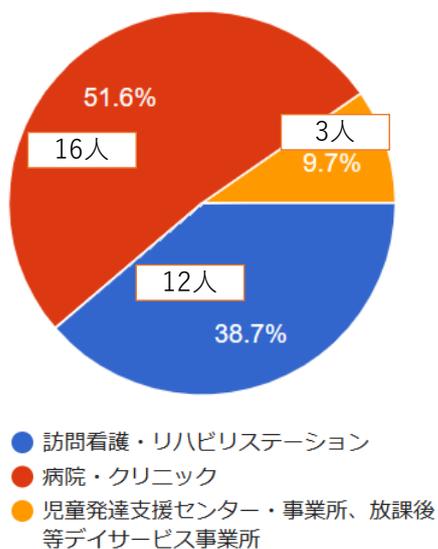
PM 埼玉医大福祉会カルガモの家 リハ室

当日参加者32名 アンケート回答者31名

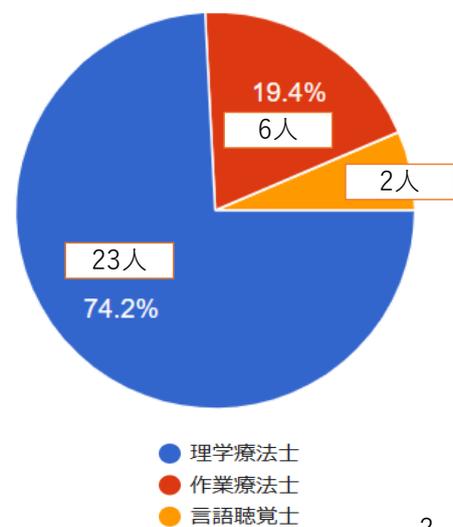
1

回答者内訳（31名）

事業形態

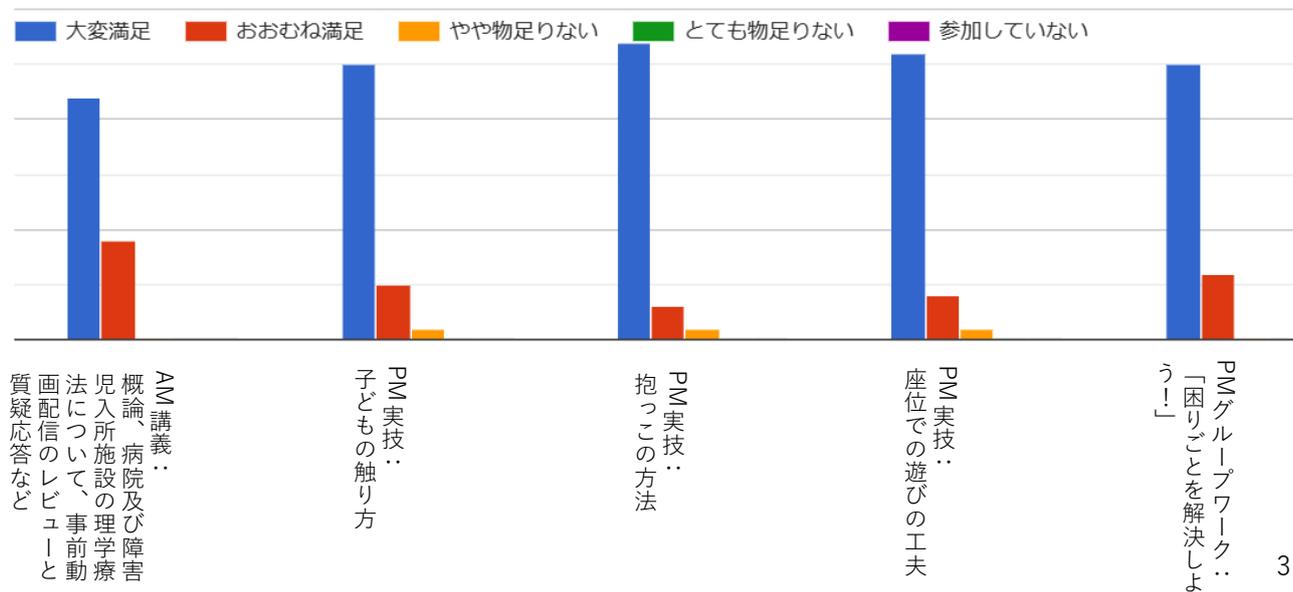


職種



2

講義の満足度



3

追加してほしい内容

- * ポジショニング等実技が多い方が良い
- * 感覚統合療法について
- * 埼玉県の障害福祉課との連携
- * 発達障害の子への関わりについて
- * 補装具を実際に手に取って確認してみたい
- * ①ケースワーク②嚥下評価③遊び方、教材、おもちゃなどの紹介
- * 補助具の調整や、遊び方、リハの進め方での工夫したことなど
- * 小児の重症度に分けた研修があれば参加させていただきたい
- * 実際のリハ内容(基本の手技や症例の紹介)などがあったらイメージ付きやすい
- * 理学療法以外の職種の方からの講義や実技がさらに含まれると嬉しい
- * 嚥下、哺乳から食べ物を使用した経口摂取、について(特に哺乳に関して)
- * 実技練習をまたプログラムに追加して頂けるとより参考になる
- * 本日の講義でも一部あったように、実際経験された症例に基づいた介入の報告がイメージしやすく勉強になった。
ケーススタディのような内容もあるとよい
- * リハビリ3職種全般に共通する内容。理学療法士と作業療法士は近い部分があるが、言語聴覚士は別な要素も大きいので、
言語聴覚士に特化した内容も入れて頂くと、当施設のスタッフも研修に出しやすい
- * 今後も入門編的な基本的なところは押さえていただければありがたい
- * 筋緊張の調整の仕方など、手技が知りたい
- * 子供用の装具や歩行器の説明を教えてください
- * 補装具の適応や制度などを詳しく知りたい
- * 立位、歩行について
- * ケーススタディのような具体的な症例の検討
- * 実症例の介入動画を観る事が出来たら有り難い
- * 人工呼吸器がついているお子さんへのケアなど
- * 実際の症例を色々知りたい

4

2023年度小児リハビリ研修会 参加後アンケート 抜粋 感想

- *1日通して実技、講義ともに丁寧にご指導いただき大変学びになりました。多くの人と意見交換できてとても良かったです。
- *NICU や在宅での関わりについては経験がなく初めて伺うことが多かったですが、大事にすべき考え方や、逆にそれぞれが抱える悩み事はどの現場でも通ずることがあるのだなと感じました。講師及び運営の方々、お忙しい中準備や当日の講義本当にありがとうございました。
- *スタッフの想いが詰まった講習会だったと思います。事前学習なども基礎知識を増やす機会となりました。
- *それぞれの悩みを共有することができとても良い時間を過ごすことができました。対面でお話してきたので繋がりが持てて良かったです。
- *同じ地域の方との交流ももう少しできたらよかったなと思いました。
- *これから小児リハビリに関わるスタッフへ向けての研修があると、スタッフの心理的な壁も下がると思っています。
- *研修に参加して、少し小児についての壁が下がったと思います。とても、有意義な1日でした。
- *講師の先生方が温かく、和やかな雰囲気での研修会でまた参加したいと心から思いました。コロナ禍明け、実技がある研修会はやはり為になりました。日々の振り返りや明日から改めて身を引き締めることにも繋がりました。
- *講師の皆さんの熱い思いを感じる研修でした。グループワークでは担当してくださったファシリテーターを中心に、参加者の悩みに対して具体的な解決策を話し合えたことは大変勉強になりとても貴重を経験をさせていただきました。
- *今まで訪問リハや重心のお子さんと携わったことがなかったため、今回講義や他のセラピストの方達の話は難しいと感じました。しかし、経験学ぶことができてよい経験となりました。今後のリハで活かしていきたいと思います。
- *参加者の皆さんもファシリテーターの先生も含めて熱い気持ちの中でお話ができたと感じました。すごく楽しかったです。この縁を次にいかせるようにしていきたいです。
- *事前の動画から本日の実技まで、盛りだくさんの内容を講義していただき、大変勉強になりました。また機会があれば勉強会に参加させていただきたいです。
- *事前の動画など内容がわかりやすく、繰り返しみることができたのが良かったです。実際に介入時にやってみてわからないことを見直したり確認しながら行うことができました。介入する際に少しこれをやってみよう、ここをみてみよう意識できました。事前質問への回答が早口だったので書面か時間を割いていただけると助かります。
- *事前動画への質問の回答時間がもう少し長いといけそうで有難いです。
- *事前動画や実技など盛り沢山で大変勉強になりました。
- *小児のリハビリの勉強会に参加するのが初めてだったのですが、本当に勉強になりました。
- *小児の経験が少なく、正常発達と乖離があることはわかってもどう促していくべきか悩むことが多々あったので、とっても勉強になりました。

- *小児リハビリに転職してから初めての対面研修でした。とても緊張しましたが、今回出会えた方々の意見も合わせて今後活かせる内容でした。
- *小児領域に携わる上でとても貴重な知識や実技、相談時間でした。
- *症例紹介など、具体的なリハビリについても知りたいです
- *凄く勉強になりました。明日からステーション内での勉強会を開き、自身のフィードバックにします。
- *他機関の先生方とも知り合え、大変貴重な機会でした。
- *大変実りのある研修会でした。継続的に実施していただくと大変ありがたいです。
- *同じ訪問リハビリをしている方達の悩みを聞いて、自分と同じ悩みを抱えていることや目標設定の考え方などを知れて良かったです。
- *病院から地域のリハの視点や考えを聞いて面白かった。リハビリ同士、人によるとはおもいますが、電話等、連携取りやすい雰囲気の人が多いのでは？と少し安心しました。
- *普段、なかなかできない実技の時間が特に勉強になりました。
- *普段の悩みをグループで共有しアドバイスを頂けたのでとても勉強になりました。明日からの臨床で生かしていきたいと思います。また、実技で触り方や抱っこの方法や遊び方を学ぶことが出来てとても勉強になりました。
- *普段相談出来ない方や別の場所で働いている人との意見交換や、情報共有が行えることが出来て良かったです。また、実技も行う事ができたのでとても勉強になりました。

他にも「ありがとうございました」という言葉は多数あった

IV. 小児在宅実技講習会

1. 開催案内方法（資料Ⅳ－1「小児在宅実技講習会のご案内」参照）

支援者向け動画と同じ方法に加えて院内の看護師にも開催案内をした。

2. 申込者（資料Ⅳ－2「申込者内訳」参照）

医療デバイスを取り扱うため、基本的な清潔操作ができる職種（看護師、リハビリセラピスト、喀痰等吸引研修修了者）を募集し 31 名から参加申し込みがあった。その後キャンセルや当日欠席者もあり最終的に 26 名で開催した。参加者職種は保健師・助産師・看護師が一番多かった。勤務先は児童発達支援・放課後等デイサービス事業所が多く、次いで特別支援学校と保育園が同数であった。例年は訪問看護ステーションが一番多いが、今年度は 1 名のみであった。訪問看護ステーションは患者の同行訪問により病院で直接主治医から始動を受ける機会もあるため、講習会に参加する必要性が少なくなったのかもしれない。

3. 開催方法

1) 動画視聴

「小児在宅医療の現状」「胃ろうについて」「気管切開について」「人工呼吸器について」「バイタルサインから見るフィジカルアセスメント」は事前に動画を視聴し質問は集合研修会場にて作成者に直接聞くよう案内した。

2) 実技デモ動画

「胃ろうボタン交換」「気管カニューレ交換」「小児の心肺蘇生（AED 含む）」は一人の講師が 3 グループを担当する。その都度デモを行っていたが、その時間を短縮するため、事前に作成したデモ動画を視聴し、流れを理解した上で参加するよう案内した。

3) 集合研修 プログラム通り開催した。まとめの段階で訪問看護の経験もある当日運営補助者から自身が経験したトラブルとその対応について話しがあり大変好評だった。

4. 集合研修の内容（資料Ⅳ－3「プログラム」参照）

実技・注入体験・医療機器の説明と 3 部に分けて実施した。

実技は例年通り気管カニューレ交換、胃ろうボタン交換、心肺蘇生を実施した。気管カニューレと胃ろうボタンは昨年度看護師による管理説明ブースが好評だったので今年度も開催した。心肺蘇生は児童発達支援・放課後等デイサービス、保育園からの参加者が多かったため AED も追加した。ハイムリッヒ法に関しては消防署等の講習会を案内した。今年度の日本臨床栄養代謝学会（JSPEN）でカット食注入体験が行われるとのことだったので、当講習会でも注入体験を新設した。そばのカット食注入および半固形製剤の注入と胃内の空気を排出できるファレルバルブバックを紹介した。半固形製剤を知らない参加者も多かった。

医療機器の説明は参加者からアンケートを取り、呼吸器はトリロジーevo とパピー X、肺痰補助装置としてカフアシスト、酸素は濃縮器のシンプリーゴーと酸素ポンベの取り扱い及び災害時対応の説明を各医療機器メーカーにいただいた。

5. 参加後アンケート（資料Ⅳ－4 「参加後アンケート」参照）

26 名中 23 名から回答があった。胃ろうボタン交換・気管カニューレ交換・心肺蘇生の実技講習については医師から教わったという満足度が高かった。カット食注入・半固形剤注入・ファレルバルブバックの説明については、家族と同じ食事をとることができるを知ったという回答が多かった。

人工呼吸器・酸素濃縮器・酸素ボンベ・排痰補助装置の説明及び体験については医療機器メーカーと直接話をする事で理解が深まったという回答が多かった。こういった機器類は家族の方が詳しいため支援者は気後れしがちである。担当者に直接質問できる場合は貴重である。ある参加者からは「実際にやってもらうのはお母さんたちでも、対等に話ができるように」という運営側の言葉はまさに参加動機であり、保護者の方に安心していただけるよう勉強を続けていきたい、という言葉をいただいた。実技講習会開催の意義があった。

6. そのほか

災害時対応についてもっと知りたいという意見が多かった。次年度の災害対策研修には医療機器の災害時対応についてプログラムに取り入れることも検討する。

心肺蘇生では骨折しやすい子や側湾がある子について質問がでていた。今後は重心児の体形的な特徴を踏まえた内容も検討していきたい。

また、「他に経験してみたい実技」に吸引をあげている方が数名いた。成人と小児では吸引圧や挿入長が変わるだけで手技に違いはない。実技講習会として吸引の何を教えるのかを検討する。別の研修会では「聴診を教えてほしい」という回答があったため、吸引に至るまでの OOAD ループ【Observe（観察） Orient（状況判断） Decide（意思決定） Act（行動）】を踏まえた研修会は理想的である。しかし病院の看護師 1 名で企画運営しているため限界がある。教育プログラムを立案していただける大学教授と連携ができると良いかもしれない。

まとめ

今年度は4つの研修会・講習会を開催した。いずれも昨年度より申込者が増えた。これはコロナウイルス対策も落ち着き、集合研修にも参加しやすくなった為と思われる。

医療的ケア児支援センターでも研修会が増えている。同じ内容ではなく、病院主催だからこそできる内容を検討していきたい。



©川越市 2010

小児在宅実技講習会

開始時間変更

日時 2024年3月9日(土) ~~9:30~~ 13:00~17:00

場所 埼玉医科大学総合医療センター 管理棟2階

対象者 埼玉県で小児在宅医療に係る医療関係者、喀痰吸引等研修の修了者
(気管カニューレやシリンジの清潔操作ができる方に限る)

定員/参加費 30名 5名×6グループ/参加無料

申し込み方法 右記QRコードまたは以下URL

↓お申し込みQRコード

申込URL: <https://forms.gle/CHpqM4yepXVU6BDg9>※URLは当研究会 (<http://www.happy-at-home.org/>) にも掲載しております

・申込締切: 2024年2月9日(金) 16時

プログラム(予定)

1. オンライン講義 講義動画を各自で予め視聴

小児在宅医療の現状、胃瘻について、気管切開について
人工呼吸器について、バイタルサインから見るフィジカルアセスメント
小児の心肺蘇生

2. 集合研修 人形を用いた実習、人工呼吸器や排痰補助装置の説明など

- 1) 実技講習: 胃瘻ボタン交換、気管カニューレ交換、心肺蘇生
- 2) 医療機器の説明: 人工呼吸器、排痰補助装置など(他検討中)



主催 埼玉県小児在宅医療支援研究会 ・ 埼玉医科大学総合医療センター小児科

講習会担当: 埼玉医科大学総合医療センター 小児診療看護師 小泉恵子

問い合わせ先: pedzaitaku+2023@gmail.com

<http://www.happy-at-home.org/>

資料IV-2

2023年度 小児在宅実技講習会 申込者職場市町村
申込者31名 最終26名

市町村	人数
川越市	8
所沢市	6
さいたま市	3
越谷市	2
八潮市	2
上尾市	1
新座市	1
東松山市	1
入間市	1
和光市	1
合計	26



事業形態別の職種内訳

職種内訳

職種	人数
保健師・助産師・看護師	22
医師	2
リハビリセラピスト	1
喀痰吸引等研修修了者	1
合計	26

職場	職種	人数
児童発達支援センター・支援事業所 放課後等デイサービス事業所	看護師・助産師・保健師	8
	特別支援学校	5
保育園	看護師・助産師・保健師	5
病院	看護師・助産師・保健師	2
	医師	2
訪問看護	看護師・助産師・保健師	1
看護専門学校	看護師・助産師・保健師	1
介護事業所	喀痰吸引等研修修了者	1
日中活動事業所	リハビリセラピスト	1
	合計	26

2023年度小児在宅実技講習会プログラム

日時・場所

2024年3月9日（土）13時～ 管理棟2階カンファレンス室1、2

受付開始12：30（これより前是对应できません）

実技

気管カニューレ交換、胃ろうボタン交換、心肺蘇生

説明・体験

人工呼吸器（トリロジーevo、パピーX）、酸素濃縮器・ポンペ、排痰補助装置

体験

カット食注入体験（GBラージボア）、ファレルバルブバック（MIC-KEY）

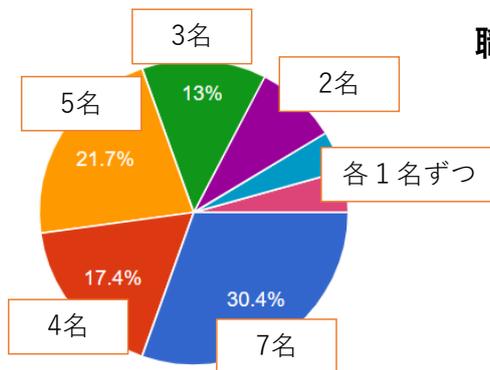
時間		内容	グループ					
			A	B	C	D	E	F
13：00 ～13：10	10分	事務連絡						
13：10 ～13：30	20分	実技	胃ろうボタン交換①	気管カニューレ交換①	心肺蘇生① AED	胃ろうボタン交換②	気管カニューレ交換②	心肺蘇生② AED
	5分	交代						
13：35 ～13：55	20分	実技	気管カニューレ交換①	心肺蘇生① AED	胃ろうボタン交換①	気管カニューレ交換②	心肺蘇生② AED	胃ろうボタン交換②
	5分	交代						
14：00 ～14：20	20分	実技	心肺蘇生① AED	胃ろうボタン交換①	気管カニューレ交換①	心肺蘇生② AED	胃ろうボタン交換②	気管カニューレ交換②
14：20 ～14：30	10分	まとめ						
14：30 ～14：45	15分	休憩・移動						
14：45 ～15：00	15分	体験	カット食注入体験①	カット食注入体験②	カット食注入体験③	半固形注入体験①	半固形注入体験②	半固形注入体験③
	10分	交代						
15：10 ～15：25	15分	体験	半固形注入体験①	半固形注入体験②	半固形注入体験③	カット食注入体験①	カット食注入体験②	カット食注入体験③
15：25 ～15：40	15分	休憩・移動						
15：40 ～15：55	15分	説明・体験	呼吸器説明 (各7分)	酸素濃縮器① 説明	排痰補助装置①体験	呼吸器説明 (各7分)	酸素濃縮器② 説明	排痰補助装置②体験
	10分	交代						
16：05 ～16：20	15分	説明・体験	酸素濃縮器① 説明	排痰補助装置①体験	呼吸器説明 (各7分)	酸素濃縮器② 説明	排痰補助装置②体験	呼吸器説明 (各7分)
	10分	交代						
16：30 ～16：45	15分	説明・体験	排痰補助装置①体験	呼吸器説明 (各7分)	酸素濃縮器① 説明	排痰補助装置②体験	呼吸器説明 (各7分)	酸素濃縮器② 説明
16：45 ～17：00	15分	まとめ						

2023年度実技講習会 参加後アンケート

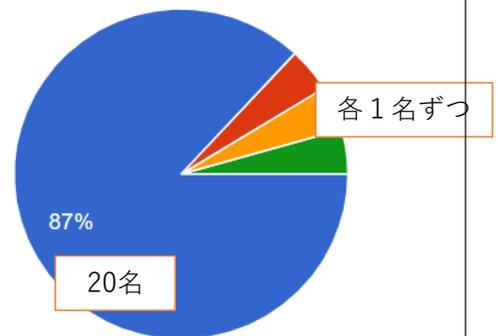
開催日時 2024年3月9日（土）13：00～17：00
場所：埼玉医科大学総合医療センターカンファレンス室
参加者26名 アンケート回答者23名

参加後アンケート回答者 23名 内訳

勤務先



職種



- 児童発達支援センター・児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所
- 特別支援学校（知的・肢体・ろう）
- 保育園・保育所・認定こども園
- 病院
- 訪問看護ステーション
- 生活介護事業所
- 訪問ヘルパー

- 保健師・助産師・看護師
- リハビリセラピスト
- 喀痰吸引等研修修了者
- 医師

ご意見、ご感想 <別紙>

- 胃ろうボタン交換・気管カニューレ交換・心肺蘇生の実技講習について
- カット食注入・半固形剤注入・ファレルバルブバックの説明について
- 人工呼吸器・酸素濃縮器・酸素ボンベ・排痰補助装置の説明及び体験について
- その他ご意見やご感想

3

今後「小児在宅実技講習会」で受講してみたい 内容 回答10件

- 吸引（児発・放デイ 看護師）
- 吸引の手技（児発・放デイ 看護師）
- 導尿、吸引、経管栄養の手技（児発・放デイ 看護師）
- 栄養の現状と今後（病院 看護師）
- 中心静脈栄養、ストーマ（児発・放デイ 看護師）
- 気管カニューレや胃瘻が抜去された時の対応（児発・放デイ 看護師）
- トラブルシューティング（保育園 看護師）
- 呼吸器使用の方の災害時の支援（生活介護事業所 リハビリセラピスト）
- 在宅での災害時の対応（訪問看護 看護師）

4

2023年度小児在宅実技講習会 参加後の感想

【胃ろうボタン交換・気管カニューレ交換・心肺蘇生の実技講習について】

* 医師から教わった満足感がある

- ・ 実際に触れたので良かったです
- ・ 緊急時の対応を想定して仕事をしている中で、実技講習はとても良い経験になりました。
- ・ 実際に行うのは初めてで、貴重な機会でした。
- ・ 実技が出来て良かったです。
- ・ 現場で実際に抜けたというトラブルはないのですが、いざという時に冷静に交換が出来るように対応出来るか不安です。今日の体験はとても良かったです。
- ・ 実技も交えてとても分かりやすかったです。
- ・ 現場の医師の指導でしたがとても丁寧に教えていただきありがたかったです。
- ・ 実際に実技できて良かったです。
- ・ 実際に実技ができて、自分が理論的にまだわかっていないこともわかり良かったです。まだまだ経験重ねていきたいです。
- ・ 胃ろうボタン交換、気管カニューレ交換は初めて行ったので緊張しましたが、今日の講習を受けて、実際に胃ろうや気管切開のお子さんの対応をするときの不安が軽減しました。
- ・ 交換は経験なかったので実際にできてよかったです。
- ・ 実際に体験ができ良い機会になりました。胃瘻チューブ交換は2回体験できてコツもつかめました。カニューレもカフつきを体験させていただき、呼吸器の子場合でのやり方も確認できました。心肺蘇生もプール前に職員研修もしていますが、今日の交代の方法等、次年度に活かしたいことも学びました。質問にもその場で答えていただきながらの実施だったのでとてもよかったです。
- ・ 現実には医師が実施する行為なので、はずれた時は緊急時対応も不安もありました。実技が出来てたいへん良かったです。家族や救急要請時も慌てずに対応出来そうです。小児の心肺蘇生は経験なかったので実技として経験出来て良かったです。

【カット食注入・半固形剤注入・ファレルバルブバックの説明について】

* 家族と同じ食事をとることができると知った

- ・ グラムと ml について知りたかったです。
- ・ 実際に注入でき、勉強になりました
- ・ すでに学校で実施していますが、実技を再確認出来ました。
- ・ ファレルバルブバックの説明があまり聞けず残念でした。カット食注入は興味深かったです。
- ・ なるべく家族と同じ物、消化機能の維持のためにカット食は重要だと思いました。
- ・ 最近のミキサー食やコネクターの事など、トピックスをわかりやすく教えてくださいありがとうございました。
- ・ 実際に実演させていただき良かったです。
- ・ カット食の形状など実際に確認できてよかったです。
- ・ 新しい知識が得られ、参考になりました。
- ・ 家族との関係を深め利点等を説明して紹介出来たら良いと思いました。

- ・カット食って何だろうと思ってましたが、注入体験ができてとても良い機会になりました。胃瘻から注入しているお子さんが半固形剤の注入に変わったタイミングでもあったので、その体験もできてよかったです。バックのことも初めて知る機会になりました。実用化はコスト面で難しそうだと感じましたが、必要なものが普及できていたらいいなあ…とも感じました。
- ・子ども達にも家族と同じ食材(臭いもある)を食卓で注入出来たら良いと感じました。

【人工呼吸器・酸素濃縮器・酸素ボンベ・排痰補助装置の説明及び体験について】

* 次年度の災害対策研修では医療機器の災害時対応に関するプログラムを検討する

<人工呼吸器>

- ・昔より操作が簡単になっていて勉強になりました。
- ・人工呼吸器は基本的な事の説明を聞いて良かったです。
- ・人工呼吸器の説明はもう少し時間が欲しかったです。呼吸器だけでも別枠で研修したいです。
- ・災害時どのような実例があるか知りたいです。
- ・改めて人工呼吸器の災害時の対応の件は、確認できたらいいなと思いました。

<酸素濃縮器・ボンベ>

- ・シンプリーゴーの存在を知り、酸素が必要な人も遠出が出来る商品があることに感動しました。

<排痰補助装置>

- ・排痰装置が思っていたより苦しいということが理解出来ました。
- ・排痰補助装置の体験がとても良かったです。(多数あり)

<その他>

- ・苦手分野なので、時間が足りなく感じました。
- ・初めて知る事もあったので学びになりました。人工呼吸器は難しいので、もっと初歩的な内容から知らないといけないと感じました。
- ・様々な機器を体験できて勉強になりました
- ・酸素ボンベや酸素管理のことも知れ、カフアシストの体験も初めてできて良かったです。
- ・呼吸器の業者さんと直接話ができて回路の相談などできてよかったです。問題の解決につながりました。
- ・実際に使っている機械の説明を家族からしか聞いていなかったもので、業者の方に聞いてよかったです。

【全体的なご意見、ご感想】

- * 「実際にやってもらうのはお母さんたちでも、対等に話ができるように」という運営者の言葉はまさに自分の参加動機だった。関わる保護者の方に安心していただけるよう、勉強を続けていきたい。

以下の意見は多数あり。

- * 実際に体験でき、医師や看護師とも色々話のできたので有意義だった
- *トラブルシューティングの共有が役に立った
- *過去の参加をスタッフが覚えていてうれしかった
- *横のつながりができた

V.埼玉県小児在宅医療支援研究会

1. 開催概要

第 48 回 テーマ「保育園の医ケア児 ～第 2 弾～」

2023 年 5 月 17 日（水）ZOOM ウェビナー

<特別講演>

- (1) 辻村淳子（増林保育所 所長）
「医療的ケア児の受け入れを行って」
- (2) 酒井利浩（豊田市こども発達センター 地域療育相談室）
「重症心身障がいや医療的ケアのある子どもたちを支えるために
～豊田市での取り組み～」
- (3) 高田哲（神戸市総合療育センター 診療所長）
「保育所・認定こども園等における医療的ケア ～神戸市における現状と課題～」
- (4) 辻玲子（おかもと虹こども園 園長）
「医療的ケア児を受け入れて… 看護師・保育教諭と共に歩んできた道のり」

第 49 回 テーマ「小児の摂食嚥下の極意！」

2023 年 7 月 19 日（水）ZOOM ウェビナー

<特別講演> 長岡菜都子（一般社団法人「オンライン臨床」代表理事、「びいどろ」代表）

「オンラインで繋ぐ こどもの未来の食支援」

第 50 回 テーマ「乳幼児の摂食障害～目からウロコのアプローチ～」

2023 年 11 月 22 日（水）ZOOM ウェビナー

<特別講演>

- (1) 山家京子（つばめの会 代表）
「NPO 法人つばめの会について」
- (2) 大山牧子（神奈川県立こども医療センター 新生児科偏食外来担当）
「乳幼児の摂食障害 目からうろこのアプローチ」

第 51 回 テーマ「能登地震における在宅医療支援」

2024 年 2 月 28 日（水）ZOOM ウェビナー

<特別講演>

- (1) 前川哲雄（埼玉県栄養士会）

「災害支援における栄養士の役割」

(2) 山口陽介（災害支援ナース）

「災害支援における心得 能登地震の支援を通して」

(3) 紅谷浩之（オレンジホームケアクリニック）

石川和子（NPO 法人ぐるんとぴー）

「能登地震支援における効果的な戦略」

2. 参加登録者数

	第 48 回	第 49 回	第 50 回	第 51 回
医師	124	150	283	90
歯科医師	3	13	19	14
看護師／助産師／保健師	283	245	274	201
薬剤師	2		4	8
リハビリ療法士（PT/OT/ST 等）	28	191	126	24
栄養士	2	24		
相談支援専門員／医療ソーシャルワーカー	39	12	13	29
児童指導員／児童福祉司	10		11	9
介護職員	2	8	4	7
保育士／幼稚園教員	226	47	18	5
保育園／幼稚園経営者	24			
教員（小／中／高校）	4	7	4	8
教員（専門学校／大学等）	26	8	20	17
患者／家族	6	18	22	13
行政職員	25	4	5	17
企業職員	3	3	5	5
学生	3	7	3	2
その他医療職		16		
その他	27	13	58	27
合計	837	777	869	476



(配信中の様子)

資料 V-1. 第 48 回開催案内

資料 V-2. 第 49 回開催案内

資料 V-3. 第 50 回開催案内

資料 V-4. 第 51 回開催案内

埼玉県小児在宅医療支援研究会

「保育園の医ケア児 ～第2弾～」

日時 2023年 5月17日(水) 19:00～21:00

場所 Web配信 Zoom ウェビナーで配信 18:50より入室可(事前登録必要)

お申し込み QR コード



※端末で zoom が使用できるようにご準備ください(ダウンロード・インストール等)
 ※お申し込みフォームは下記 URL・QR コード、
 または研究会 HP (<http://www.happy-at-home.org/>) からでも登録可能です。

お申し込み URL

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_I96Hrx3UTUmNji_Od0m-Gg
 ご登録後、ウェビナー参加に関する確認メールが届きます。オンデマンド配信はありません

2023年2月15日に「保育園で医ケア児を受け入れるためには」という講演会を開催し、大きな反響を頂きました。そこで、さらに課題解決に向けて深掘りした第2弾を開催させていただきます。特に保育所にお勤めの方は、以下のアンケート調査にもご協力お願い申し上げます。

アンケート URL <https://forms.gle/JKpWmaahVkrfqQBz8>

特別講演

- (1) 埼玉県越谷市の公立保育園
辻村 淳子 所長
- (2) 愛知県豊田市の保育園
酒井 利浩 氏 (豊田市こども発達センター相談支援専門員)
- (3) 兵庫県神戸市の保育園
辻 玲子 園長
高田 哲 先生 (神戸市総合療育センター)



日本小児在宅医療支援研究会

検索

埼玉医科大学総合医療センター小児科 連絡責任者：森脇 浩一

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

E-mail: pedzaitaku@gmail.com

tel:049-228-3550 (平日 16時まで)

オンデマンド配信もあります！

第49回

埼玉県小児在宅医療支援研究会

「小児の摂食嚥下の極意！」

日時 2023年 7月19日(水) 19:00~21:00

場所 Web配信 Zoom ウェビナーで配信 18:50より入室可(事前登録必要)

お申し込み QRコード



※端末で zoom が使用できるようにご準備ください(ダウンロード・インストール等)
 ※お申し込みフォームは下記 URL・QR コード、
 または研究会 HP (<http://www.happy-at-home.org/>) からでも登録可能です。

お申し込み URL

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_hFhem85qRqSn0Y6vZjYVAg
 ご登録後、ウェビナー参加に関する確認メールが届きます。

医療的ケア児の多くは経管栄養を使っていますが、本当は口から食べたい、食べさせたい、と思う方は多いです。しかし、そのノウハウがないために諦める方も多いです。そんな中、オンラインで小児の摂食嚥下を指導される画期的な言語聴覚士が現れました。誤嚥を防ぐ極意を学ぶとともに、専門指導を提供するオンライン起業の取り組みについても聞かせて頂きます。

特別講演

長岡 菜都子 氏

(言語聴覚士、一般社団法人「オンライン臨床」代表理事、「びいどろ」代表)

『小児の摂食嚥下の極意！』

ワークショップを行いますので、下記のものをご用意下さい。

- 水やお茶
- ビスケットや煎餅(個包装のもの)
- ストロー
- フェイスタオル



日本小児在宅医療支援研究会

検索

埼玉医科大学総合医療センター小児科 連絡責任者：森脇 浩一

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981

E-mail: pedzaitaku@gmail.com<http://www.happy-at-home.org/>

第50回

埼玉県小児在宅医療支援研究会

「乳幼児の摂食障害～目からウロコのアプローチ」

参加
無料日時 2023年 **11** 月 **22** 日(水) 19:00～21:00

オンデマンド配信もあり!

場所 Web配信 Zoom ウェビナーで配信 18:50より入室可(事前登録必要)

お申し込み QR コード



※端末で zoom が使用できるようにご準備ください(ダウンロード・インストール等)
 ※お申し込みフォームは下記 URL・QR コード、
 または研究会 HP (<http://www.happy-at-home.org/>) からでも登録可能です。

お申し込み URL

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_IL_M9V3FQTKZphCF9LfpuQ
 ご登録後、ウェビナー参加に関する確認メールが届きます。

赤ちゃんなのにミルクを飲まない、離乳食を食べないために、経管栄養になってしまう子もいます。
 このたび、摂食指導の大家である大山牧子先生のご講演を頂きます。
 その上、お子様の摂食でお悩みの方に個別の助言をして下さいます。個別指導をご希望の方は
 11月5日までにウェビナーに登録し、お子様の生活情報を登録フォームにご記入下さい。

特別講演

大山 牧子 先生

(神奈川県立こども医療センター 新生児科偏食外来担当)

山家 京子 氏

(つばめの会 代表)



日本小児在宅医療支援研究会

検索

埼玉医科大学総合医療センター小児科 連絡責任者：森脇 浩一

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

E-mail: pedzaitaku@gmail.com<http://www.happy-at-home.org/>

第51回 埼玉県小児在宅医療支援研究会

「能登地震における在宅医療支援」

参加
無料

日時 2024年 **2**月 **28**日(水) 19:00~21:00

オンデマンド配信もあり!

場所 Web配信 Zoom ウェビナーで配信 18:50より入室可(事前登録必要)

お申し込み QRコード



※端末でzoomが使用できるようにご準備ください(ダウンロード・インストール等)
※お申し込みフォームは下記URL・QRコード、
または研究会HP (<http://www.happy-at-home.org/>) からでも登録可能です。

お申し込み URL

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_uC7ZGzNJSJq670iCOLBTDg
ご登録後、ウェビナー参加に関する確認メールが届きます。

特別講演

前川 哲雄 氏

(災害支援における栄養士の役割 @埼玉県栄養士会)

山口 陽介 氏

(災害支援における心得_能登地震の支援を通して @災害支援ナース)

紅谷 浩之 氏

(能登地震支援における効果的な戦略 @オレンジホームケアクリニック)



日本小児在宅医療支援研究会

検索

埼玉医科大学総合医療センター小児科 連絡責任者：森脇 浩一

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

E-mail: pedzaitaku@gmail.com

<http://www.happy-at-home.org/>

事業担当：埼玉医科大学総合医療センター小児在宅医療支援プロジェクトチーム

田村正徳 側島久典 森脇浩一 是松聖悟 高田栄子 奈倉道明 小泉恵子

運営協力：小児科メディカルアシスタント：當麻未奈世

小児科秘書：宮崎雅美 横田早苗